

1656年に創立された大照院は、禅宗の一派臨済宗の寺院で、長州の藩主であった毛利家の菩提寺のひとつである。大信院の敷地内、寺院の裏手には大きな墓地がある、そこには毛利秀就(1595-1651)と偶数代藩主の墓があり数百基の石燈籠に囲まれている。また、敷地内には修復された本堂と書斎、小さな禅庭園、そして日本で唯一の神道の神、赤童子の像がある。